

中学2年4組 社会科学習指導案

指導者 岡田 昭彦

日本の地域的特色を紹介する内容について、学級全体で練りあげる学び合いを行ったことは、日本全体を一つの地域としてとらえながら、世界的視野から日本の地域的特色を理解することに有効であったか。

1 単元名 アメリカのペンフレンドに日本の魅力を伝えよう ～世界と比べた日本の地域的特色～

2 単元のねらい

世界の各地域との比較を通して、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結び付き」の観点から日本の地域的特色について理解し、それらの知識をいかしながら、世界的視野から日本の地域的特色を構築することができる。

3 授業の構想

(1) 本学級は、地理に対する興味・関心が高く、授業中の発言も活発である。ただ、本単元の学習前のアンケートの結果によると、日本の地域的特色を「寿司」「温泉」「たたみ」「原発」「自動車工業」といった、羅列的・断片的な知識でとらえるにとどまっている生徒が多い。

本学級の生徒は、1年時に世界の諸地域をアジア州からオセアニア州までの六つの州に分け、それぞれの州の地域的特色をつかむ学習を行ってきた。その際には、基礎的・基本的な知識を習得した上で、各地域の特色をつかむことが有効と考えられる学習課題のもとで追求学習を行ったり、他地域との比較を通してその地域の特色を明らかにしたりしてきた。生徒たちは、それらの学習を通して、地理的な見方や考え方を身に付けつつあるといえる。しかし、これらの力は一朝一夕にして身に付くものではない。自分自身で調べたり、他者の意見を知ったりしながら新しい見方や考え方で知識を再構成するような学習を積み重ねることで身に付くと考える。よって、世界と比べた日本の地域的特色をつかむ本単元においては、世界の地域と比較したり、自分の考えを再構成したりするような場面を大切にしながら、日本の地域的特色を考えていきたい。この学習において、1年次の学習をいかしながら日本の地域的特色をとらえていくことは、より知識の習得を確かなものとするとともに、今後生徒自らが、習得した知識を必要場面に応じていかすためにも重要であると考ええる。

(2) 本単元は、世界的視野から日本を一つの地域として取り扱い、日本の地域的特色を理解できるようにすることをねらいとしている。その際には「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結び付き」の四観点から考えさせ、日本国内の違いを踏まえつつ、日本全体を一つとした地域的特色をとらえていく。そのためには、生徒自らが、具体的事象を比較したり関連付けたりしながら各事象を吟味し、日本の全体像を再構築していく力が今まで以上に求められる。

上記のねらいを達成するために、まずは四つの観点から世界と比較した日本の地域的特色をとらえる学習を行い、単元終末部において、それまでに習得した知識を総合的にとらえ直すことができる学習問題を取り入れることで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めたいと考える。単元終末部の学習問題は、「アメリカのペンフレンドに日本の魅力を伝えよう」とし、この学習問題のもと、「限られた紙面」で「アメリカのペンフレンドにより日本全体の特色を知ってもらおう」ため、日本の特色を厳選していくことは、生徒が我が国の特色をとらえ直す機会になると考える。

(3) 本単元を展開するにあたり、思考力・判断力・表現力を高めるため、以下の点に留意したい。

① 生徒が単元を通して興味をもつ問題設定と、日本全体を意識する手だての工夫

思考力・判断力・表現力を高めるためには、いかに生徒に切実感をもって学習に没頭させるかが重要になってくる。そのためには単元の終末部に唐突に学習問題を提示するのではなく、「アメリカのペンフレンドに日本の魅力を伝える」という単元終末部の学習問題を、最初に生徒に提示する。ペンフレンドは英語科で1年生の時に実際に文通をしており、実在する人物であり、必ず反応が返ってくる切実性のある学習課題である。また、架空ではなく実際にペンフレンドに手紙を送る設定は、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるものとする。

② 第2の学び合いの設定

第5次では、ペンフレンドへの手紙を2段階の学び合いで作成していきたい。まず「第1の学び合い」の場面では、四つの観点ごとに日本の特色として外せないと考えられるものを、根拠を示しながら班で出し合う。そのなかで、生徒は自分の考えに揺れを感じたり、自信をもったりしながら、自分の考えを再構成していくであろう。そして、認識の深まった状態で本時の「第2の学び合い」を行う。前時までに個々が外せないと考えた日本の地域的特色をもとに、「アメリカのペンフレンドに魅力ある日本の地域的特色を伝えよう！」という学習課題で、学級全体で紹介内容として取り入れていく日本の特色を練り上げていく。アメリカという地域の対象をはっきりさせることで、生徒はそれと比較した日本全体の地域的特色をより鋭く考察していくものとする。

また、学び合いの前後に生徒が作成した紹介文やふりかえりを用いることで、教師が生徒の認識をしっかりととらえ、学び合いではたらきかけにつなげるとともに、学び合いの有効性も検証していきたい。

4 展開計画（全13時間 本時13/13）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学び合い）
1	アメリカのペンフレンドに紹介するために日本の地域的特色（自然環境）について考えよう。①	1・2 3	・世界と比べた日本の地形や気候の特色について考える。 ・自然からの恩恵を考え、自然災害と防災について考える。
2	アメリカのペンフレンドに紹介するために日本の地域的特色（人口）について考えよう。②	4・5	・世界と比べた人口の特色や問題や対応について調べる。
3	アメリカのペンフレンドに紹介するために日本の地域的特色（資源と産業）について考えよう。③	6・7 8・9	・世界と比べた日本の資源・エネルギーの特色を考え、問題や対応について調べる。 ・日本の各産業の特色を考え、問題や対応について調べる。
4	アメリカのペンフレンドに紹介するために日本の地域的特色（地域のつながり）について考えよう。④	10・11	・世界と比べた日本の通信網や交通網の特色を考え、問題や対応について考える。
5	アメリカのペンフレンドに日本の魅力を伝えよう。	12 ⑬	◇四つの観点からとらえた日本の地域的特色をつくる。 ◇アメリカのペンフレンドに紹介したい日本の地域的特色を、クラスでつくりあげる。

5 本時の学習

(1) ねらい

アメリカのペンフレンドに紹介する文を学級全体で考えることで、世界的視野から日本の地域的特色をとらえることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組 (◎は、学びをいかしている子どもの姿)	教師の支援と願い・評価
1. 前時までを振り返り、学習の見通しをもつ。 2. 本時の学習課題を確認する。	
アメリカのペンフレンドに魅力ある日本の地域的特色を紹介しよう！	
3. 自分たちの考えた、アメリカと比較して紹介したい日本の地域的特色を説明しながら、学級全体で考える。 ・自然環境からの日本の特色(造山帯・温帯・島国など)をとらえた内容 ・人口からの日本の特色(人口集中地域・少子高齢社会など)をとらえた内容 ・資源・産業からの日本の特色(資源が少ない国・ものづくりのさかんな国など)をとらえた内容 ・地域のつながりからの日本の特色(国内交通網の充実・世界との結びつきなど)をとらえた内容 4. アメリカのペンフレンドに紹介する日本の地域的特色を、みんなでまとめよう。 ◎アメリカには日本と同じ造山帯があったり、海に面した国だけど、温泉に入る習慣がなかったり、魚の食べ方も限られているから、文化としてまとめて紹介しては。 ◎アメリカよりずっと狭い国土に、1億を超える人が住んでいるなんて、アメリカの人はきっと驚くから入れるべき。 ◎ものづくりがさかんで、多くの国と貿易でつながっているのはアメリカも一緒だから、公共交通機関が少ないアメリカには、日本の交通網を紹介しようよ。 5. 本時を振り返る。	・各班、二つのパラグラフを選び、紹介したい日本の地域的特色について、根拠を示しながら紹介する。 ・アメリカとの相違点をはっきりするために、「なぜ」「どのような点が」といった掘り下げるはたらきかけを行う。 ・日本的一部分しかとらえていない内容があれば、資料を提示することで、日本全体をとらえられるようにはたらきかけを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点(社会的な思考・判断・表現)</p> <p>日本の地域的特色について、世界的視野(四視点)を根拠にして考えている。 【評価方法：ワークシート 発言】</p> <p>支援</p> <p>世界的視野から日本を俯瞰できるように、「アメリカと比べて」という視点を大切にし、その方向性を示していく。</p> </div>

(3) 思考力・判断力・表現力の評価

	A	B	C
評価基準	世界的視野からみた日本の地域的特色を、四つの観点を関連付けてとらえている。	日本の地域的特色を、四つの観点でとらえている。	日本の地域的特色を、一つ～三つの観点でとらえている。